

小学校低学年における学級経営の在り方

— 体験的な活動を通して規範意識を育てる学級経営年間計画例の提示 —

山口 賢

よりよい集団を育てる学級経営をしていくためには、規範意識の形成は必要不可欠な要素である。規範がない状態、もしくは、規範を守ろうとする意識がない状態であれば、集団は成り立たないからである。本研究では、安心して学校生活を送り、自分らしさを発揮できる集団をつくっていくために必要な規範意識の育成に焦点を当て、研究を進めた。規範意識を育てていくための指導や支援の時期を考え、規範意識の醸成をしていく上で大切な時期となる低学年の学級経営年間計画例を作成した。そして、その中でどのような指導や支援が必要であるかを検討し、具体的な指導の在り方を提示した。

第1章 学級経営の現状と課題

第1節 小学校における学級経営の現状と課題

本市では、若手教員の研修ニーズとして、学級経営に関する研修を必要とする声が多く上がっている。また、全国的に見ても、「学級がうまく機能しない状況」が続くという問題が起きている。

学級がうまく機能しない原因として、「子どもの集団生活や人間関係の未熟さの問題」が挙げられる。これらの問題を克服し、子どもが社会性を身につけるために、学級集団を主とした望ましい集団の育成が、学級経営に求められる。低学年の間に多くの関わり合いを経験し、対人スキルを身につけ、集団の中にいることの楽しさを感じることができるようにしていくことが大切である。

第2節 望ましい集団を育成するために

望ましい集団を育成していくための要素の一つとして規範意識の形成が挙げられる。人とつながりを大切にする人権感覚に基づいた規範意識を育てることで、集団を形成、維持していくことができ、安心して過ごすことのできる学級集団をつくることのできる。規範意識は、外からの強制的な規範の押しつけではなく、自らの判断で行動できるように育てていく必要がある。そのためには、規範の意義を考え、大切さを実感し規範を内面化していくことが重要である。

規範意識を醸成していくためには、大人の提示する規範をさかんに取り入れる低学年の時期に、規範意識の基礎をつくることが重要である。そのためには、日常の中で粘り強く規範について指導するとともに、他者や集団を意識させ、その中で自己有用感をもたせることが求められる。

このように、低学年で規範意識の基礎を育成することが、望ましい集団を育成していく上での基盤になると考える。

第2章 体験的な活動を通して育てる規範意識

第1節 規範意識の育成に視点をおいた学級経営年間計画例の作成

低学年で意図的・計画的に規範意識を育てていくことが大切である。そのために学級経営年間計画を作成した。年間計画では、一年間を大きな三つのまとまりに分けた。規範意識に関わる要素を①信頼感 ②所属感・連帯感 ③責任感の三つと考え、それらを一つ一つのまとまりの中で高めていけるように計画を考えた。三つの要素を意識し、規範意識を育む指導を年間計画に位置づけた。また、学んだことを日常の生活に生かしていくために、規範意識を育む学級風土をつくっていくことも重要であると考え、学級風土づくりの場を設定した。教師も環境の一つであると考えることができ、低学年においては、教師の「褒める」「叱る」という指導が大きな影響を与えると考える。

第2節 規範意識を育てるための指導の工夫

規範意識を育む指導では、①「教師が教える規範」②「子どもが気づく規範」③「規範の大切さを感じる活動」の三つの指導を関連させて行う。

①「教師が教える規範」の指導では、内面へのアプローチと行動面へのアプローチを行う。内面への働きかけで、規範の重要性を増すこと、行動面への働きかけで、具体的な行動の仕方を学ぶことが大切である。

②「子どもが気づく規範」では、子ども同士で話し合っただけで規範をつくる。自分たちで考えることで、自律的な規範意識へと高めることができる。

そして、①②の指導を「規範の大切さを感じる活動」へつなぎ、内面化していけるようにしたい。知識だけにとどまらず、自ら考え、体験することで、実社会に生きる規範意識を育成することになると考える。

第3章 実践授業を通して

第1節 第1学年での実践「遊びや集会活動を通して規範の大切さを実感する取組」

○教師が教える規範

「約束やきまり」について考える実践を行った。「内面へのアプローチ」では、道徳の時間に資料を通して約束を守ることの大切さを考え、自分たちの周りにおけるきまりや約束について振り返ることによって、身近な約束やきまりの大切さを改めて感じることができた。「行動面へのアプローチ」では、学級活動内容(2)で休み時間の約束について考えた。休み時間の困りを解決するためにはどのような行動をとることが大切かを考え、約束をつくり掲示した。規範の大切さを実感する活動として、休み時間の全員遊びを設定した実践では、遊びの中で約束を意識する姿が見られた。活動後の感想では、「きまりを守って遊べたので楽しかった。」と、約束を守って遊ぶことの良さを感じることができていた。

○子どもが気づく規範

休み時間に出てきたドッジボールのルールの問題について話し合い活動を行った。単にルールを決めるのではなく、「クラスみんなで楽しく遊ぶためのルール」を考えるようにした。このことで、今まで少しずつ違っていたルールをクラス独自のルールとして共通理解することができた。また、自分たちでルールをつくることで、楽しい活動は自分たちの力でつくっていくことが大切であるということに気づくことができた。

第2節 第2学年での実践「授業や係活動を通して規範の大切さを実感する取組」

○教師が教える規範

「聞くことの大切さ」について考える実践を行った。「内面へのアプローチ」では、道徳の時間に資料を通して話し合った。聞いてもらえなかったときと聞いてもらえたときの気持ちを対比させたり、気持ちを表情で表したりする活動を行った。生活に返して、話を聞いてくれる人の存在を思い出し、そのときの楽しさやうれしさを感じることができた。行動面への「アプローチ」では、ゲームを通して、話をしっかり聞いている態度とはどのような姿なのかを考えた。しっかり聞くために気をつけることを話し合い、オノマトペを使って合言葉をつくった。授業や係活動、朝の会・帰りの会などで発表や話を聞く機会を多く設定した。その中で、聞き方を意識することを繰り返すことにより、規範

の大切さを実感することができた。

○子どもが気づく規範

前期の係活動の振り返りを行い、「係活動があまりできていない。」という子どもの発言を受けて、後期の係活動をどうするかを考えるための話し合い活動を行った。振り返りを基にしたことにより、視点を定めて話し合うことができた。係活動を行うときには、話し合いで決めた係活動の約束を確認すること、各係でどのような活動をしたかを全体で共有することで、責任感をもって活動することができた。

第4章 規範意識を育み、望ましい集団へと高めていくために

第1節 規範意識を育む指導の成果と課題

「教師が教える規範」の指導では、以下のような成果が見られた。

- ① 自分たちのまわりにおける規範を振り返ることができた。
- ② 規範を守るとは人を大切にすることになると考えることができた。
- ③ 規範について共通理解することができた。
- ④ 規範を意識し、行動することができた。

「子どもが気づく規範」の指導では以下のような成果が見られた。

- ① 学級で起きた問題を自分の問題としてとらえることができた。
- ② 友だちの意見を聞き、みんなが楽しく活動するために規範を考えることができた。
- ③ みんなが楽しくなるために、決めた約束を守って行動する姿が見られた。
- ④ 話し合っただけで決めたことは実行していこうという責任感をもつことができた。

課題としては、子どもがきまりや約束に固執してしまうため、きまりが多くなりすぎないように、きまりとして明示していくものと、一人一人が気をつけていくものとを分けて考えていく必要がある。また、一つの話合い活動を行うまでの準備が多岐にわたり、時間がかかるため、時間の調整や時間をかけない工夫が必要である。

第2節 今後の取組に向けて

集団が変容したことから、「段階を考えて指導することの重要性」「学級活動の重要性」「継続していくことの重要性」が見えてきた。これらを意識して年間計画を考えることが大切である。低学年で育てた規範意識を醸成していき、望ましい集団を育成するためには、「学校全体で取り組むこと」「幼稚園・保育園や中学校との連携を図ること」「家庭・地域との連携を図ること」が求められる。